

## 2020 年度通常（第 2 回）理事会議事録

日時：2020 年 9 月 5 日（土） 13：00～17：00

場所：ZOOM を使用したオンライン会議

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、中川千鶴子、桑原啓三、馬場益弘、中澤信夫、川北達也、大村雅一、富田三和子、望月宣武、平松隆、宮野幹弘、中村和哉、永井真美、中村隆夫、尾形依子、橘田佳音利、関一人、高間信行、長塚奉司、高橋祐司、中島量敏、加賀谷賢二、森田豊三、黒川重男、磯部君江、吉留容子、菊池邦仁、岩瀬喜貞、安田大助、宇都光伸

以上 30 名

出席監事：児玉萬平、上野保、紙谷雅子

以上 3 名

オブザーバー：安藤淳総務委員長、松田一隆財政委員長、柳澤康信広報委員長、増田開ルール委員長、山川雅之医事・科学委員長、金子純代キールボート委員長、鈴木保夫参与、坂谷定生参与、斎藤渉参与

### 議事の経過及び結果

新型コロナウイルス感染症対応のためオンライン会議システム ZOOM を使用し開催した。出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わることを確認し、適時的確な意見表明がお互い出来る仕組みになっていることを参加理事に確認していただき、議案の審議を下記のとおり開始した。

（定足数の確認）

理事 32 名中、出席者 30 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、2020 年度通常（第 2 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を川北達也専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、尾形依子、橘田佳音利の両理事が任命された。

河野会長から、オリンピック代表選手について、報告があった。ジュニア、ユース、高校生の全国大会の再開、特に和歌山県で開催された大会は和歌山県連のバックアップ体制も

整っており、非常に良い対応をしていただいた。JSAF としても、ガイドライン制定の責任があり、馬場副会長、川北専務理事に和歌山県の大会に行っていただき、問題なく無事に開催でき大変喜ばしい。相模湾ではレースが行われていなかった為、学生のために神奈川県セーリング連盟と湘南サニーサイドマリーナが協力し、オープンレースを開催してくれた。開会式、閉会式もない、新たな形でのオープンヨットレースの再開、キールボートのレースも再開し始めて、大変喜ばしい。後程、報告があると思うが、以前からお願いしている学生の会費免除も所要の基金が集まった。学生ヨット連盟からも感謝状が届いているとのこと。協力ありがとうございました。ニュースでも取り上げられているが、徐々に来年のオリンピックについても具体的な検討が始まっている。また、社会の新型コロナウイルスに対する考え方も変わってきている。是非とも来年のオリンピックを開催していただき成功させたい。明日、明後日には九州に大型の台風が来るとのことで安全を祈る。様々な議題があるが審議いただきたいとの発言があった。

以上、理事会開始にあたり河野会長からご挨拶があった。

川北専務理事から、事前に資料を配布し、各理事の方々に資料を読み込んでいただいていると思うので、資料の説明は簡易化していただきたい。基本的に発言者以外の方はミュートとし、質問があればミュートを解除し名前を名乗っていただいてから発言するようお願いがあった。また、議事録作成のために音声を録音する旨、発言があった。

## 〈審議事項〉

### 1) 2020 年度第 1 次補正予算（案）について

松田財政委員長から資料に基づき、2020 年度第 1 次補正予算（案）の説明があった。

事業活動収入について、メンバー年会費収入が 715 万円減少した。これは 1300 人分の本年度大学生会費相当分で不足相当分は、大学生支援寄付金から充てる予定である。寄付金 1,710 万円増と協賛金 1,420 万円増を合わせて募金・寄付金収入は 3,130 万円増加した。事業収入では、大会講習参加料事業収入で 418 万円減、業務用品販売事業収入で 187 万円減、バッチテスト収入で 120 万円減、補助金等収入は 2 億 2870 万円減少となった。

事業活動支出について、事業費支出では、それぞれ渡航費支出が 4,830 万円、滞在費支出が 3,370 万円、旅費交通費支出が 4,213 万円、業務委託費支出が 8,972 万円、雑役務費で 1 億 312 万円、大会講習会開催費支出で 1,249 万円の減少となった。管理費支出では、租税公課支出が 170 万円増加するほかは、当初予算比変更はない。これらの結果、当初予算比、事業費活動収入は 2 億 3,853 万円減少し 4 億 4,550 万円、事業活動支出は 3 億 6,289 万円減少し 4 億 558 万円となった。収支のバランスについては、当初予算の収支はマイナス 8,443 万円であったのに対し、第 1 次補正の収支はプラス 3,992 万円となった。

委員会別について、主な補正は以下のとおりである。管理費その他について、コロナ禍

の影響に伴い、大学生会員の2020年度会費についてはJSAFとして免除する方針を受けて、大学生分を除いた加盟団体負担金（メンバー会費）を当初予算から1,265万円削減となった。一方、免除決定前にすでに大学生会員から納入のあった会費550万円を別途収入に計上し、1,265万円と550万円との差額を寄付金からの充当分として715万円を計上、さらに885万円については2021年大学生会費の前受金として計上した。

東京オリンピック準備委員会について、支出が当初予算から7,622万円減少し4,938万円になっている、これは委託費、PR経費、国際大会協賛金繰入がそれぞれ約20百万ずつ減少し、報奨金も12百万円減少。収入面では、2019年運営費振替がJSC精算で返還される5,000万円を計上、日の丸協賛金が2,680万減少した結果、第1次補正よりも2,445万円増加し、9,995万円となった。

オリンピック強化委員会について、支出は、当初予算から9,463万円減少し、1億9,029万円。この内訳としては、JOC選手強化活動で約32百万円、次世代アスリート育成強化で約33百万円、有望選手発掘育成で約20百万円減少。収入は、当初予算から1億446万円減少し、1億8,057万円。この内訳は、補助金等収入で約85百万円、負担金収入で19百万円の減少である。

SWC江の島委員会について、大会中止に伴い収入・支出ともに当初予算に計上した1億4,761万円を減額補正した。

投資活動について、東京オリンピック開催年度であったため当初予算では、特定費用準備金積立の取り崩しを87百万円予定していたが、第1次補正では来年度への延期に伴い取り崩しを行わないとしている。

これらの結果、第1次補正予算（案）では3,792万円の収入超過、これを前期繰越の8,895万円と合わせて、2021年度への繰り越し収支は1億2,787万円を見込みで、当初予算よりも3,731万円収入超過が増加するとの発言があった。

反対0、保留0、満場一致で承認された

## 2) 在宅勤務（内規）職員就業規則改定について

安藤総務委員長から資料に基づき、（在宅勤務内規）職員就業規則（改定案）について説明があった。

在宅勤務規定の新設を行った。協議なしで審議事項とし、16条に在宅勤務根拠規定を新設した。内規も同時に制定を行った。厚生労働省の在宅勤務、基本的条項のみを制定している。就業規定そのものがシンプルに基本形を定めている。なお、見直しができなかった部分を見直し修正を行った。

反対0、保留0、満場一致で承認された

## 3) JSAF 定期表彰について

安藤総務委員長から資料に基づき、2020年度JSAF定期表彰に係わる受賞候補者推薦依頼について説明があった。

今年度の受賞候補者に案内する予定である。2項の(4)に推薦調書の締め切りを11月13日と定めている。11月の常任委員会、12月理事会審議、来年1月23日の全国加盟団体代表者会議で表彰する予定。昨今の新型コロナウイルスの関係でリアルな表彰ができるか総務委員会で検討するとの発言があった。

反対0、保留0、満場一致で承認された

#### 4) 特定寄付金および特別寄附金の募集に関わる目論見書(修正)について

川北専務から資料に基づき、特定寄付金の募集に関わる目論見書について説明があった。

大学生への年会費免除に伴う寄付金について前回の理事会で2021年3月31日の期限で、募集総額1400万円で理事会にて承認された。募集金額の訂正、2020年9月5日で募集総額を超えたので終了する。現在、本寄付は特定寄附金の募集に関わる目論見書と特別寄付金募集の2つが存在している。規定上では別であるが、目的主旨は同じなので、特定寄付金、特別寄附金の総額を報告している。状況としては、最初想定より学生数が多く、おおよそ1500万~1600程度の費用がかかるとおもわれる。ほぼ100%充当する見込み。用途はこの概要の中ですすめる。両寄付金の最終総額を1613万5000円に変更する。WEBサイトで案内する。寄付金は個人42人、団体21団体、企業17社から頂いた。本日、承認いただき、JSAF公式ホームページの寄付金サイトに協賛会社のロゴならびに大学生生活動支援キャンペーンの欄を設け協賛企業名を正式に上げる予定にしていると発言があった。

河野会長から、サニーサイドマリーナの名前がないと指摘があった。報告はホームページに公表して終わりなのか、御礼文、全日本学生ヨット連盟からの感謝状を寄付してくれた方々、団体、企業には送らないのかと質問があった。

川北専務からサニーサイドマリーナのロゴについては、至急手配する。個人、団体、企業には御礼状、全日本学生ヨット連盟の感謝状を付けて郵送すると回答があった。

河野会長から大学生の登録、免除対象の人数が良く理解出来ていない、実際に登録行為はされているのかと質問があった。

川北専務から今年度の登録行為、免除前に支払ってしまった大学生については来年度の免除準備についても行っている。

河野会長から、今年度の会費を支払った大学生は問題ないと思うが、会費を払っていない大学生の登録行為は進んでいるかとの質問があった。

川北専務から大学生の登録については進んでいる。2019年度の大学生の登録数は分かる。一番の問題は、都道府県連以外からの登録を行っている大学生数の確認が必要になる。現在各加盟団体に確認して実行していく。

反対0、保留0、満場一致で承認された。

#### 5) 2020 東京オリンピック Finn 級代表選考について

齋藤委員長から資料に基づき、2020 東京オリンピック Finn 級代表選考について説明があった。

2020 東京オリンピック Finn 級の最後の代表選考指定大会である 2020 年 Finn 級世界選手権大会が、COVID-19 の影響により 8 月 20 日、同大会を中止する旨主催者より正式発表された。これを受け、2020 東京オリンピック Finn 級代表の新しい選考方法について、オリンピック強化委員会より「新しい選考方法」を提案する。

①2021 年 3 月下旬に開催予定のプリンセスソフィア杯（スペイン・バルマ）を代表選考指定大会とし、以下の選手を 2020 年東京オリンピック日本代表として JOC に推薦する。オリンピック出場国数（19 か国）以内の日本選手が 1 人以上の場合には、選考得点上位の選手とする。いずれの日本選手もオリンピック出場国数以内に入らなかった場合には、同大会に出場した日本選手の成績最上位選手にする。2019 年の同大会を 470M/W、49er/49erFX は選考指定大会とした。

②上記に示す大会が中止となった場合には、日本国内において選考大会を開催し、成績最上位の選手を 2020 年東京オリンピック日本代表として JOC に推薦するとの方法が公平かつ納得性も高いと考えるが、本案に対する日本 Finn 協会および代表候補選手らの意見を収集し、必要に応じ考慮する。選考方法の決定は、JSAF 理事会開催時期を逸するため、JSAF 会長とオリンピック強化委員会による協議結果に委任いただく（上記 1 項の記載事項以外は、2018 年 12 月 13 日公示済の「2020 年東京オリンピック セーリング競技 日本代表選考要綱」を適用する）との発言があった。

反対0、保留0、満場一致で承認された。

#### <協議事項>

##### 1) NF ガバナンスコードについて

安藤委員長から資料に基づき、NF ガバナンスコードの提案があった。

自己説明の公表内容作成、適合性審査の準備に向けて。今年4月 JSPO/JOC が公表している。関係専門委員会で作成している。改善課題は2028年度まで段階的に対応する。JSAF 現状を整理している。今年度自己説明案は馬場副会長に内容を確認いただいている。今後のスケジュールは来年1月自己説明を JSAF 公式ホームページにて公表、引き続き4年に一度の検査受診のための書類作成を行い、2021年度7月までに統括3団体に提出する。来年予備調査を8-9月に受け、その指導を踏まえた2021年度自己説明を10月に JSAF ホームページに掲載する。その後、2023年3月までに統括団体のHPに審査結果が掲載される JSAF に加盟する団体に対しても、JSAF の公表内容やコンプラ研修を通じてサポートを行い、可能な範囲で自己説明の公表支援をしていく。すでに常任委員会で虎ノ門法律事務所に内容の指導を仰ぐことの承認を受け、JOC のNF支援センターにも指導いただくことになっている。まず、1月開示に向け12月理事会へ自己説明案を示すとの発言があった。

加賀谷理事から9-12月にかけてガバナンス作成支援とは JSAF が支援することでのいかと質問があった。

安藤委員長から、今年1月に各県連に説明会があり、コンプライアンス研修の件、継続実習が必要である。9-12月にコンプライアンス研修をする予定と回答があった。

川北専務から、オンラインセミナーで開催できるようにしていきたい、作成支援のサポートも提供していくことで進めていきたいと発言があった。

平松理事から、加盟団体の提出はいつかと質問があった。

川北専務、団体のホームページに掲載するのを義務付けは JSAF にあるが、加盟団体は努力目標となっていると回答があった。

平松理事から、法人化されていない任意団体の公表は不要なのか

川北専務から順次整備していくことを求められている。各団体とも組織強化と体制支援をしていきたいとの回答があった。

馬場副会長から、理事数や女性理事など、時間をかけて検討すべきことは、別で考える。まずは、早急に提出すべきことを12月理事会で審議して JSAF ホームページ上で掲載していきたいとの発言があった。

## 2) 特別加盟団体申請（一般社団法人日本オーシャンレーサー協会）について

安藤委員長から資料に基づき、特別加盟団体申請について提案があった。JORA 協議を経て、12月理事会で承認とする。代表者北田氏、特別加盟団体条件を満たしているとの発言があった。

大村常務から補足の説明があった。海外のレースに出場する日本人を支援する団体で、海外レースの準備や現地スタッフの紹介やサバイバルトレーニングなどを開催して

支援している。JSAF傘下で活動するのがいいだろう。2020年度世界選手権は中止となったが、次年度以降のオリンピックの支援がすすむようになると発言があった。

川北専務から、ホームページなどを見ていただいて、判断していただきたい。要件は満たしているのので、再度資料を検討いただき、ホームページをご覧いただきたいと発言があった。

望月理事から、決算報告書が2期から3期までの過去の未払金を落としているように見えるので、会計監査はしているのか評価いただければ幸甚、個人的には異議はない。加盟して活発的に活動していただきたいとの発言があった。

児玉監事から、協会の理事だが、ご指摘は当然である。北田氏の個人資産を社団法人のとして、会計のリセットをした。JSAF特別加盟団体としての意思の表れであると発言があった。

川北専務から、安藤総務委員長から関連各位に確認、12月審議事項に掛けると発言があった。

### 3) ナショナル・ジャッジ、ナショナル・アンパイア規定改定について

増田委員長から資料に基づき、ナショナル・ジャッジ、ナショナル・アンパイア規定改定について提案があった。

コロナの影響について、NJ等の資格要件に①セーリングしている要件②ジャッジ実務経験があるとあるが、今年は大会が開催されていないので充足困難である。減免をしないと更新できない問題がある。現行規定では減免はない。ルール委員会が必要と思うことを減免していただきたい提案内容である。次回理事会でどのような減免をとるかなど審議いただきたいと発言があった。

川北専務から、次回審議事項とすると発言があった。

中村和哉理事から、計測委員には問題ないと判断している、クラス協会に依頼すると発言があった。

高橋理事から、レースオフィサーについてはレースマネジメント委員会で検討が必要であるか確認する発言があった。

### <報告事項>

川北専務から、報告事項は事前に質問をいただくことになっている。確認いただいていることを前提に報告する。

#### 1) 会員増強プロジェクト報告について

川北専務から会員増強プロジェクトについて資料に基づき、説明があった。カテゴリーを設けて①~③の施策で考えている。3つのステージで合意を得ながら、成果を出し

ていきたい。年度ごとに会員登録忘れが発生しており、これを最小限にする仕組みを検討している。具体的意見をいただいて、仕組みと規程で押さえていく。その先には、会員メリットを検討している。月一回のプロジェクトで検討を進めると説明があった。

望月理事から、意見、取りこぼしをしないことは大切であるが、プレイヤーからの意見だけではなく、JSAF の魅力や政策が必要。e-Sailing やボランティアなどに取り入れていくことも考慮が必要である。保護者をファンにしていく。外洋のレースを増やすこと、もっと気軽に船をチャーターして乗れないかなど、新しい事業や仕組みを出していくことが大事である。もう少し、事業開発のような場が必要であり理事会で議論すべきであると発言があった。

川北専務から、昨年理事会のビジョンで示しているが、目の前の課題を捉えて検証して、手ごたえのある事業を進めていく。望月理事の意見も取り入れて考えていきたい。アイデアベースを実現可能にするための努力をしていくとの発言があった。

増田委員長から、WS から RRS 発行にあたり、新しい RRS アプリの開発に着手している。各国の言語を集約して公式サイトに掲載したいと相談を受けたとの話があった。4年後には RRS で JSAF が収益を上げるのは困難になる可能性が高い。財政健全化プロジェクトのほうかもしれないが、ルールブックで収益を得られないことを前提に、様々な検討をしていただきたいとの発言があった。

川北専務から、より広くルールブックを会員に周知することを考えていきたい。また、長期目標設定に向けたアクションの中でも考えていきたいとの発言があった。

## 2) 財政健全化プロジェクトについて

松田委員長から財政健全化プロジェクトについて資料に基づき、説明があった。

①会計業務の運営の適正化、②管理系の経費について説明する。現在は適切に処理をしている会計処理の一般会計については寺澤事務局長が、オリ強等の補助事業については、斎藤会計担当理事が作業してきた。オリ強会計部分について、JSAF 実情から会計士とも相談し、外注などを含めて検討してきたが、継続的に実施する観点から事務局に引き継ぐことが肝要である。そのため、支払いの事務作業を標準化することで事務作業面のプロセスをマニュアル化することが大切である。その過程を関係各位で整備していけるところから整備していく。事務局作業の担当見直し、業務分担も検討していく。②補正案で示したところのコーポレート（収入がない事業はマイナスがでる。これをどのように中長期的に議論していくのか検討する。財形会計を運営できることを検討しておるとの発言があった。

川北専務から、この内容は公益法人を継続するうえで、大変重要な検討事項で、理事会で共有していきたい。単純に経理の専門家をつれてきても、顧問会計士から指摘事項である。再度、整理して、斎藤参与からの実務引継ぎをしてく。また、それぞれの委員会から支払依頼書の改正、コード指定の委員会の協力が必要になるとの発言があった。

- 3) 総務委員会報告（日本スポーツグランプリ受賞者/斉藤実氏）について
- 4) オリンピック強化委員会報告について
- 5) オリンピック準備委員会報告について
- 6) レースマネジメント委員会報告（公認申請等進捗状況一覧他）について
- 7) ルール委員会報告（JSAF 規定 2021-2024）について
- 8) 普及指導委員会活動状況報告について
- 9) 環境委員会報告について（環境キャンペーン補助金一覧表）

永井理事から環境委員会報告について資料に基づき、説明があった。

環境キャンペーン前年度同様額、コロナでできないかもしれない。横断幕の数が減っているので新調する。JOC から来た時よりきれいに」大会のプログラムに掲載。ポスターの縮小版をいれる。横断幕写真をとるのは、形骸化しているようにみえる。よりサステイナブルな運営にできないか、名目もとに環境キャンペーンにできないか、検討している。JSAF ホームページにも掲載したいと報告があった。

- 10) 2020 年度メンバー登録数（7月31日現在）について
- 11) 2020 年度定時評議委員会議事録 案 について
- 12) 2020 年度通常第1回理事会議事録 案 について
- 13) その他
  - ①JSAF 事務局業務、リモートワーク実施について
  - ②外洋駿河湾 会長交代について
  - ③2020 ヨコハマフローティングヨットショーについて

川北専務から、IRO 推薦について常任委員会で検討確認した。不手際で提出納期が規程から遅れていたが、顛末書をいただき、常任委員会にて会長一任で推薦することになった。手続きについては RM 委員長に嚴重注意する旨、報告する。

尾形理事から、e-Sailing 委員会から報告があった。5月理事会において報告した大会開催の準備をすすめている。コロナ禍でユースなどのセーリング機会が減り、大会ができないでいるが、オンラインで安全にできる e-Sailing がさらに注目されてきている。最初の機会としてあらゆる可能性がある。2018 世界大会が開催され、いまやムーブメントにもなっている。日本もナショナルチームの輩出やリアルセーリングとの相乗効果

得たい。現在、調査しているが、バーチャル練習レースを毎週開催しているところもある。オンライン上で視察もしている。練習会も開催している。競技のノウハウ交換などもしている。秋口に日本大会運営トライヤルも実践している。セーリング経験を問わず楽しめるし、セーリングの普及も図っていききたい。9/26、27e-SailingJapan Cup レースを開催したいと考えている。近日中に公示をする。日本人ランキング上位者も増えてきている。合わせて国際大会への参加（ネーションズカップへのナショナルチーム輩出）を進めたい。WS 契約もある。今後は関係各位に相談しながら協力を得て進めていきたい。事前の告知で報告した。e-Sailing の大会場の提供、環境整備は卒業して一度セーリングから離れても再びセーリング界に戻れる機会としても有効。e-Sailing を宣伝していきたい。「e-sailing JAPANCUP」の告知を進めている。宣伝用画像や案内を用意している。ビジョン、エントリー方法を進めているとの発言があった。

望月理事から補足説明があった。コロナの中で変わる代替大会を考えて進めてきた。理事会で報告するのは初めてだが、①WS が開催するネーションズカップに日本代表選手を送りたい。②9月大会ではJSAF 会員はハードルが高いので免除してほしい。選考後に会員登録する。JSAF 後援名義をいただきたい。国内予選でも非会員も出場できるとしたい。国内選手権、WS からライセンス契約が必要になる。50万円/年くらいの契約料が必要とされている。予算上は補正予算の79万から支出したいとの発言があった。

中澤副会長から後援いただきたい旨発言があった。

河野会長から、新しい分野で例外的なことは認めてもいい。JSAF の一翼を担っていただきたい。

川北専務から、昨日知った事項である。契約や会員登録等の問題があることか疑問を感じる。国別とする選考等はオーソライズするのか疑問である。普及の目的ならば後援することは価値があるが、強化についてはどうかと発言があった。

尾形理事から、資料報告が遅れたことや不手際をお詫びする。コロナの中でランキング上位に日本人がいたことでWS オファーがあった。将来を見据えて進めていきたいと発言があった。

望月理事から、手続きは万全ではなかったが、理事会に審議する事項が不明、今回の件はどのようなことを理事会にオーソライズしていただくのかご指南いただきたいとの発言があった。

川北理事から、8月常任委員会にお話しできたことではないかと発言があった。  
河野会長から、手続きは重要だが、手順も重要。理事会で決定すればいいと理解しているが、この理事会で承認すべきではないということなのかと発言があった。

川北専務から、本日提出されてきた議案である。懸念がある。目的は2つ、①普及と②強化選手の国際大会派遣の2つを理事会で決めるは疑問であるとの発言があった。

富田常務から、短期間で計画立案は立派である。専務に事前に通知するべきであるとの発言があった。

平松理事から特例で進めたらいいとの発言があった。

望月理事から、新規事業の報告へのタイミングは難しい。理事会のメーリングリストで使用するか、常任委員会へ提出するのがいいのかとの質問があった。

川北専務から、秘匿性があるものは常任委員会でいい。オンラインやメーリングリストでやるのもいいと思う。賛否が必要なことである。常任委員会預かりか、理事会で決めるのか意見を聞きたいとの発言があった。

河野会長から、いつまでに決定するのか。国内の選考レースは決定事項か、特別に修正があれば委員長と専務で検討との発言があった。

尾形理事から、WS 契約、国別対抗等のスケジュールもこれから。26日予選、27日決勝レースと発言があった。

宮野理事から、5月から e-Sailing が盛り上がってきて、競技人口が増えてきた。これを逃す機会はないと発言があった。

黒川理事から、e-Sailing 準備に敬意を表する。急激に普及をしてきているので、今年の大会を開催していただきたい。国内大会には意義があるとの発言があった。

馬場副会長から、素晴らしい大会と理解できる。規則は遵守していただきたいが、大会で成立するように理事会で考慮いただきたい。理事会各位の国内大会に異論はという理解で、国際大会は常任委員会で、国際大会へのデットラインを詰めて関係各位ですすめてほしいとの発言があった。

望月理事から、手続き論に関して、常任委員会の立ち位置を教えてください。理事会が活発に活動するには、日常的な情報交換がいいとおもっている。理事会のコミュニケーションを図る。予算要求や補正予算に盛り込んでいるならば不十分なのか、スポーツ庁助成金について理事会の承認が得られていないことはどのような処理するのかご教示いただきたい。組織の手続きが分からないとの発言があった。

児玉監事は、理事が契約を結んでも有効である。決済規程で決められている。再度、関係規定をみていただきたい。その基準の中で進めていきたい。50万円未満は事務局長の決済、通常の事務手続きで進めることである。それ以上は専務である。委員長の責任で進められるとの発言があった。

河野会長から、国内大会は進める。国際大会は常任委員会に報告する。臨機応変に議案を提出いただくとの発言があった。

2020年 9月 5日

議 長	会 長	河 野 博 文
議事録署名人	理 事	尾 形 依 子
議事録署名人	理 事	橘 田 佳音利
	副 会 長	桑 原 啓 三
	副 会 長	中 川 千鶴子
	副 会 長	馬 場 益 弘
	副 会 長	中 澤 信 夫
	専 務 理 事	川 北 達 也
	常 務 理 事	大 村 雅 一
	常 務 理 事	富 田 三和子

監 事 児 玉 萬 平

監 事 上 野 保

監 事 紙 谷 雅 子